

令和元年度 京友会国際賞の選考結果

2020年6月3日 審査委員 南部啓子・南部広孝

氏名	学年	論文題目
ほう せい 彭 永成 (中国)	D1	結婚情報のメディア史 －雑誌『ゼクシィ』を中心に－
そん しおん 孫 詩榕 (中国)	M2	Schadenfreude in friendship: Explore the mechanism of feeling pleasure along with guilt (友人関係におけるシャーデンフロイデ： 罪悪感の伴う快感情のメカニズム)
き はくわい 祁 白麗 (中国)	M2	藤岡貞彦による学校論の意義と課題 －環境教育のあり方に焦点を合わせて－

彭氏の論文は、日本ではこれまで注目されてこなかった結婚情報誌を対象とし、ゼクシィを中心に据えながら類似の雑誌も視野に入れて丁寧に考察した、優れた論文である。情報雑誌研究の新たな地平を開拓するとともに、本稿の知見はさらに、理想的な花嫁像や家族間の権力関係の変化の考察などより興味深いテーマへ展開する可能性がある点で、優れた研究であると評価できる。

孫氏の論文は、心理学実験を通して、Schadenfreude（他人の失敗を喜ぶ）という感情の起こる要因の解明を目指した優れた研究である。従来、嫌な相手を想定して研究されてきたこの感情に対し、本論文では友人へのSchadenfreudeにも着目している点、またこれに近い日本語の概念として「いい気味」という言葉を取り上げ、文化差にも注目している点で興味深い内容である。

祁氏の論文は、藤岡貞彦を取り上げ、環境教育を切り口にしながら、学校のあり方、そして教育のあり方を学校の内外の視点からバランスよく検討した、優れた論文である。中国において得られた問題意識の上に、従来は社会教育の観点から検討されていた藤岡の論について学校論の面から考察し、住民運動との関係性などを取り上げながら、学校教育と社会教育をつないだ壮大で深い内容となっている。

以上のように、いずれも受賞に値する素晴らしい論文であると判断し、三本の論文を受賞対象とした。今後も、日本語の能力も磨きながら研究を進め、三人の研究生活が世界に向けてますます発展されることを期待したい。